

令和5年12月定例会 一般質問 中山武彦議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。（各議員からの「質問」（問）に該当する部分を黄色マーキングしております。）

「環境政策について」

○中山武彦 皆さん、こんにちは。

公明党の中山武彦でございます。議長のお許しを得ましたので、一般質問をさせていただきます。

質問項目は3項目ございます。1項目めは環境政策について、2項目めは健康問題について、3項目めは文化、スポーツの振興と学校部活動についてでございます。

最初、1項目めの環境政策について、1つの順番でいきますと食品ロスの削減について質問をいたします。

気象庁は、今年の秋の平均気温が平年値を1.39度上回り、1898年の統計開始より過去最高となったと発表いたしました。近年、我が国では大雨による自然災害が頻発しております。このような異常気象は気候変動が原因と思われておりますが、世界的にも大豆などの農作物の収穫に影響を与え、また食料品等物価の高騰の一因にもなっております。このままの状態が続きますと、干ばつの影響で農作物が育たず、深刻な食料の不足、また食料インフレに陥るのではないかと危惧されるところでございます。

香芝市では、国連で採択されました国際社会の目標であるSDGsを踏まえた総合計画を推進し、持続可能な社会に向けた諸施策を今推進されておりますが、私たちが毎日食べているこの食べ物、食料品を無駄に捨てない、こうした取組が今食品ロス削減として頑張っておりますけれども、SDGsのターゲットの一つとして今取り組まれておる重要な施策。

そこで、香芝市におきましても食品ロスの削減に取り組んでいる現状、まずはお聞かせ願いたいと思います。

これで壇上から1回目の質問を終わります。

○市民環境部長 本市の食品ロスの現状ということでございますが、まず国の推計でございますが、年間約523万トンの食品ロスが発生しており、これには国民1人当たりで言いますと毎日御飯茶わん1杯分ぐらいの近い量に当たるものと推計されてございます。

本市でも家庭ごみのみの状況で申しますと、家庭から排出される食品ロスについては、家庭ごみのうち食品廃棄物が約30%、さらにその食品廃棄物のうち食品ロスとなるものはそのう

ち 33%と国において推計されておりますので、本市の令和4年度の家庭ごみの量に当てはめますと、約1,500トンが食べ残しや消費期限切れによりご家庭のほうから廃棄されているのではないかと推定してございます。

○中山武彦 今、1,500トンという話がありましたけども、SDGsにある食品ロスの削減の目標につきましては、食品廃棄物の削減と併せて農作物の収穫後の損失ということで、2つの減少ということが言われておりますけども、グローバルに、そして国家レベルで取り組む目標であります。香芝市も削減が進んでいるこのところの中で推移はどうなっているのか、このあたり教えていただけますか。

○市民環境部長 本市の、まず先ほど家庭ごみのお話をさせていただきましたが、事業系可燃ごみにつきましては、全体量として、コロナ禍の影響もあったかと思うんですけども、減少してございます。食品廃棄物、食品ロスについても、それに比例して減少してるものと考えてございます。また、家庭系の可燃ごみにつきましても同じく減少傾向にございますので、食品ロスの量としては減少しているものと捉えてございます。

○中山武彦 進めていただいているというような認識を持たせていただいておりますが、コロナの自粛の影響もあるかもしれません。飲食店やホテル等の営業等が自粛されておりました。そうした中で、国内でも食品ロスの削減推進法が2019年10月に施行されて、自治体も国の目標である2030年までに2000年度比で半減させるということが積極的に取り組む目標となっております。

そこで、自治体の努力義務であります推進計画の策定の規定、これがあるんですが、香芝では推進計画をつくらないのでしょうか。この点どうですか。

○市民環境部長 おっしゃる推進計画についてでございますけれども、計画については現状策定してございません。ただ、大切なのは市民意識の向上と考えてございますので、情報発信、市民啓発に努めておるところでございます。計画についてはどういった形かという、他市の事例を研究させていただいて、またちょっと考えていきたいなと思います。

○中山武彦 まだまだ少ない策定自治体ということも聞いてますけども、できるだけ、努力義務規定ですが、頑張ってくださいと思います。

香芝市でも啓発活動今主体とされてるということですが、どのようなことに取り組まれているのか、教えていただけますか。

○市民環境部長 毎年、食品ロス削減月間の10月であったり、広報かしばにおいて、家庭ごみの食品ロス削減について特集記事を掲載したりということをしてございます。特にその内容といたしましては、冷蔵庫の見える化や保存方法、買物時の注意、調理テクニックなど、市民の皆様の行動変容を促すようなことを目的に発信しておるところでございます。

○中山武彦 市民の行動というか意識のことを先ほどからは言われておりますので、そのような啓発をされてるということですが、国全体の削減目標の達成度を調べましたら、事業所系はかなり進んでると、また、あと数万トンというふうなところまで来てると、こう聞いております。事業所系への働きかけでは自治体の取組事例は少ないですが、飲食店への啓発促進をされているのが、姫路市さんが食品ロスもったいない運動をされてるということで、資料で読みました。

香芝市にも飲食店たくさんございますけども、こういった市内店舗への取組、働きかけはされませんか。

○市民環境部長 今おっしゃいました飲食店への直接的な働きかけというものは現状行ってございません。ただ、市内スーパー等食料品店舗の購買行動につきまして、すぐに食べる物は陳列の手前から取ることに協力いただく「てまえどり」ということについて啓発のほうをさせていただいてるところでございます。

○中山武彦 「てまえどり」の啓発はされてるということで、一応事業所さんにも働きかけされてるというふうにはちょっと考えますが、姫路市さんは市内の店舗の協力を得て、賞味期限の迫る食品については予約販売を受け付けてるということで、これをするとはやはり廃棄しなくてもいいし、値段が下がって、住民の方も助かるということで、そのような一石二鳥のユニークなことをされてます。香芝市でも、「てまえどり」も新しい事業だと思いますが、そのあたり工夫して、働きかけしていただきたいと思います。

家庭系も進んでいるということですが、比較的遅れているような点が事業系に比べてあるということで、ご家庭への直接介入、なかなか難しいとは思いますが、フードドライブであればこれが推進できると、こう思います。香芝のフードドライブの実情、実施状況を教えてください。

○市民環境部長 本市市内区域におきましては、市内 13 の社会福祉法人様により組織する社会福祉法人連絡会というものの事業として、令和 2 年よりフードドライブ事業を実施されておりました、これまで 11 回実施されたと聞いてございます。11 回の実績としては、寄附食品約 7.2 トン、寄附金額約 220 万円、支援世帯 928 世帯に上ると、このように聞いてございます。なお、現在 12 回目の事業を実施中ということで聞いてございます。

○中山武彦 非常に助かるなど、貢献させていただいてるということを認識いたしました。

フードドライブにつきましては、各地域、自治体でも実施されてるところがございますけども、こういった方の連合体によってされるとまた効果は大きいと思いますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

それで次に、災害備蓄品の食品ロス削減についても推進してもらいたいのですが、その点取

組はいかがでしょう。

○**市民環境部長** 防災部局が保有しております災害用の備蓄食料として、アルファ化米であるとかビスケット類、液体ミルク、それぞれ賞味期限がございますが、フードロス対策にも努めていただいております。具体的には、アルファ化米やビスケット類については、自主防災組織が実施される防災訓練での配布であったり、また社会福祉協議会によるフードドライブ等での活用が図られてると聞いてございます。また、液体ミルクにつきましては、つどいの広場での配布や公立保育所等におけるおやつ材料として活用などを行っていると聞いてございます。

○**中山武彦** 災害備蓄品も食品ロス削減に活用できるということですので、ただ、非常時にお配りするものですから、平時にこれをお配りするということで、担当部署さんは大変難しい面があると、このように思いますので、連携して、消費期限の短いものについても、ぜひとも推進をお願いしたいと思います。

続きまして、教育部にお聞きしたいんですが、以前確認させてもらったことありますが、食品ロス削減を学ぶ取組ということでございます。学校給食の食べ残しということがありますけれども、その点については進められておりますか。

○**教育部長** 学校給食の食べ残しを減らすという取組でございますけれども、給食での取組といたしましては、毎月 19 日を食育の日としております。食育の日には、テーマに応じた献立により、給食を通じて食について学ぶ取組をしております。学校では、例えば学校通信などを通じ、食と健康や食のありがたさ、実際の残食率、これと食品ロスの実態を数字で示すことや、また、強制ではございませんけれども、例えば「もう一口」といったような声かけをする等、児童・生徒の意識が高まるような取組をしているような学校もございます。

○**中山武彦** ありがとうございます。

取組もされて、食材のやはりもったいないという部分もあるかと思えますし、食育の観点からも進めていただきたいと思います。

学校現場では食品ロスのこの学習というところ、その点はどうでしょう。

○**教育部長** 現場では、社会科や総合的な学習の時間を通じ、食料問題、食品ロスについて学んだりするなど、食べ物の大切さを児童・生徒が考える機会をつくっております。実際の給食指導の場面におきましても、個に十分配慮しつつ、おいしく味わって食べることができるよう、声かけのほうもしてまいりたいと考えているところでございます。

○**中山武彦** 学校教育の中で環境政策も十分取り組まれていかれてると思いますけれども、何せ抽象的な問題が多いので、こういった現実の取組があれば子供さんもしっかりと学習できるのではないかと思いますので、ぜひとも進めていただきたいと思います。

現状で啓発中心の施策で全体的にあるのかなと思いますが、市民、事業者さんの協力を得て、

一層取組を進めていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

では、続きまして質問させていただきます。次は、自治体GXです。

GXにつきましては、グリーントランスフォーメーションということで、CO₂などの温室効果ガスの排出量と森林などで吸収できるように均衡させるカーボンニュートラル、こういったものを含んだ概念ですが、環境問題の解決と経済の成長を実現するための社会変革を起こしていくという意味でございます。社会全体でGXの取組が今進められている中ですが、近いうちにも地域経済にもこの流れが波及してくると、こう考えております。

地方自治体として、この地域の脱炭素化などのカーボンニュートラル、これを進める事業者さんへの支援、これに取り組むことが求められてくると思いますが、折しも今ドバイで11月30日から気候変動の対策の国連会議、COP28が開かれておりますが、今回の会議では世界の温暖化対策の進捗状況を評価するというグローバル・ストックテイクが進められております。これは初めてということでございます。

香芝市でもこういった地球温暖化対策の進捗、こういったものはどうなのか、また何か新しい取組があるのか、ちょっと聞いていきたいですが、まずは香芝市の取組現状を教えてくださいたいと思います。

○市民環境部長 本市におけます脱炭素施策についてでございますが、平成31年に策定しております環境基本計画、それから第3次になりますが、香芝市の地球温暖化対策実行計画というのがございます。本市の事務事業に係る具体的な温室効果ガスの削減目標、また目標を達成するための取組を示した地球温暖化対策実行計画、これに基づきまして、脱炭素社会の実現に向けた電気や燃料の使用等に関する市職員の率先行動であったり、環境に配慮した物品の調達、省エネルギーの設備の導入等について取り組んでいるところです。なお、今回の地球温暖化実行計画でございますけれども、令和5年度までの計画期間となっており、現在、次期の計画について策定に取り組んでいるというところでございます。

○中山武彦 実行計画、率先実行ということで、香芝も市役所で取り組まれてるというところですね。現状を教えてくださいました。

削減目標は達成されてるということですか。

○市民環境部長 その計画、実行計画につきまして、削減目標というのを定めております。今、現状の計画におきましては、本年度が最終年度になるんでございますが、平成25年度比で13%以上削減ということを目指してございまして、実績でいきますと、昨年度の実績を出しておりますが、20.1%削減と、目標のほうは達成してございます。

○中山武彦 達成されてるということですけども、達成の仕方とか中身が問題だと、こう思うんですが、意識して皆さんに取り組んでいただいての削減なのか、そうでないのかというところ

ろがありますけど、その点いかがでしょう。課題はないでしょうか。

○市民環境部長 職員の取組という部分、率先行動の部分ですね。そういった部分につきましては、おおむね高い水準でできているのかなとは考えてございますが、CO₂の削減という数値目標についてでございますけれども、目標達成はしてるものの、その多くの部分、そちらについても使用している電気の排出係数、CO₂の排出係数によるところが非常に多ございますので、課題といたしますか、市独自の取組という部分で効果を発揮するものというものをまた新たに今後考えていくということは必要なのかなというのが現状私が考えております課題かと思えます。

○中山武彦 今の話では、ほぼエネルギー使用量の削減ということになるのかなと思うんですが、これは設備と機械とで変わればぐっと下がったりしますのでね。今おっしゃってるように、新しい何かというところをまたちょっと考えていただく必要があるのかなと思います。

この次の目標ということですが、検討されておりますけど、どのように取り組んでいくのか。目標とその取組ということを教えてください。

○市民環境部長 次期の計画については、まだ策定途中段階ということでございますので、最終的なところはまだはっきりは申し上げられないところございますが、次期計画については、まず削減目標というところでありまして、国のほうの削減目標が2030年度までに平成25年比46%削減ということを掲げておられますので、これに準拠したような形での設定を今考えておるところでございます。

また、新たな取組というところについても、まだ策定途中でございますが、できましたら脱炭素に寄与する、例えば電気自動車などの導入であったりとか、小規模でも蓄電タイプとか含めた太陽光発電設備の導入とか、こういったことも計画に盛り込めないのかなということで検討しておるところでございます。

○中山武彦 新しいところ、これからと思いますけども、そういったこともしていかなきゃいけないのかなと、こう思いますね。

今、現状で太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入状況、実績等、教えてください。

○市民環境部長 本市の再生可能エネルギーの導入実績というところでございますが、太陽光発電システムで申しますと、香芝市役所の会議室棟の屋上部分、屋根部分、それから香芝北中学校に設置されておるところでございます。また、再生可能エネルギーというところで、水道事業において、送水時の余剰エネルギーを利用したマイクロ水力発電の導入をされたり、また現在まだ建設中ではございますが、美濃園の新焼却施設におきましては、ごみ焼却時の熱回収による廃熱発電の導入計画というものはございます。

○中山武彦 再生可能エネルギーも活用されて、また電気を新しく作り出すということもや

っておられますけども、いかんせん、規模が小さいし、お金も初期投資でかかるので、なかなか新しい更新もできないと思うんですけど、気候変動が災害の原因となったり、経済にも影響を及ぼすと、健康被害にも、熱中症等もありますし、かなり今支障が出てきてるわけですが、香芝市の率先実行計画の取組に加えて、市内の事業者さんへの働きかけも重要と考えますが、香芝市では何かこのあたり実施されてるでしょうか。

○市民環境部長 市民や市内事業者、特に脱炭素への意識醸成とか取組の促進を図る一環として、先月の11月になりますが、市内の金融機関さんと脱炭素社会の実現に向けた連携の協定というものを締結したところでございます。これにつきましては、市内事業者への脱炭素の取組を推進する制度として、省エネ化に向けた設備導入をされる際に、通常よりも低い金利での融資を受けることができることとなってございます。こういった取組も始めさせていただいたところでございます。

○中山武彦 今、設備投資というところもあると思いますので、そのあたりこれから進んでいかなきゃいけない部分だと思いますので、いいことかなと思います。

初期投資にお金がかかるということで事業者さんも二の足を踏まれてる、あまり関係ないんじゃないかと思われてる中小企業者さんも多いかと聞いてますが、GXについては、GXの推進法で将来はカーボンプライシングと言われる炭素賦課金というのが発生する可能性もあるということも示唆されてます。これによりますと、やっぱり炭素、化石燃料等を使えば賦課金を払わなきゃいけないというようなことも出てきますし、こういったことで早く取り組む必要があると、早く取り組んだほうがいいんじゃないかと思います。国のほうも地域脱炭素移行・再エネ推進交付金、財政措置も取られてるようですので、香芝市がやっぱり中心となってGX進めていただきたいと思いますので、その点新しい計画の中の検討でしっかりうたっていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

続いて、また教育部に伺いますけども、その前に、市民に向けての脱炭素の取組もちょっと聞いておきますけども、その点いかがですか。具体的などころ何かしてますか。

○市民環境部長 市民の皆様には特に環境月間、これ6月にございます。また、12月の地球温暖化防止月間ということに合わせまして、各ご家庭で実践可能な脱炭素の取組に関する事項というのを広報紙を通じて啓発させていただいてるところでございます。

○中山武彦 今度はちょっと教育部に伺いますが、現在、先ほども伺いました、学校ではエアコンも設置して、その電気代も国において恒久的な財政措置もなされているわけです。この環境にある意味負荷をかけながら学習もしているということで、その学習によって環境政策を学ぶことの価値のほうが高いというふうに考えてるわけですね。ですから、環境学習ということをしっかり勉強していただきたいと思います。

将来の気候変動の対策につながるような学習、環境教育についてはいかがでしょうか。やっ
ていらっしゃるでしょうか。

○**教育部長** 教科等の学習では、例えば社会科、これをはじめとした授業で、環境保全や資源、
エネルギー問題など、SDGsに関連する内容を取り扱っております。

また、児童・生徒が学校という身近な場所における省エネの在り方などを自分事として捉え
る中、例えば照明のオン、オフについてのルールを設けたり、節電、節水などを意識づけるた
めのポスターですね、こういったものを掲示している学校もございます。

○**中山武彦** 環境教育も進めて、やっていただいているということで、先ほどの話もありますの
で、ぜひとも子供さんのそういった認識をしっかりと持っていただくということで進めていただ
きたいと思います。将来に関わることですから、しっかりと今勉強していただきたいと思いま
す。

「健康問題について」

○**中山武彦** 続いて質問させていただきます。次に、健康問題についてお伺いいたします。

まず最初に、今、学校における心の健康の授業についてです。

今、報道によりますと、文部科学省の実施した2022年度の児童・生徒の問題行動、不登校
の調査、この結果によりますと、小・中高生による暴力行為、これは前年度から24.8%に増
えていると。そして、これが過去最高となったと。そして、中でも小学校の発生件数が1,000
人当たり9件ということで、高校と中学校を上回るということになりました。加害児童・生徒
数によりますと、学年別では中1が一番多くて、2番目が中2、また3番目が小学5年生とな
っております。また、不登校児童・生徒、この数字におきましても、昨今言われてますように、
約29万9,000人と過去最高となりまして、そのうちの90日以上欠席している児童・生徒数は
約16万5,000人いらっしゃるということです。また、学校内外で相談とか指導等を受けてい
ない児童・生徒の数も過去最高最多で、約11万4,000人となっているということです。小・
中高生の自殺等も多く、2020年度には過去最多となったというところですが、これらの傾向、
コロナの前から増加傾向にあります。文部科学省は今年度緊急対策を始めました。

そのように聞いておりますけれども、香芝市でもこういった状況の中で実情どうなのか。まず、
その点をお伺いしたいと思います。

○**教育部長** 香芝市におきましても、全国と同様、いじめ、不登校に関しては、やはり増加傾
向でございます。

○**中山武彦** 増加傾向にあるという状況ですが、文部科学省が今定めているCOCOLOプラ

ンというところ、いわゆる緊急対策の部分ですけども、このCOCOLOというのはシーオーシーオーエルオーということで、COCOLOなんですけど、前倒し実施されています。

このCOCOLOプラン、安心して学ぶことができる、誰一人取り残されない学びの保障ということなんですけど、香芝市でこのプランを踏まえての対策、どうされてるのか、教えてください。

○教育部長 COCOLOプランでは、学びの場の確保やチーム学校での支援について示されておりまして。香芝市におきましては、適応指導を行っておりますすみれ教室の機能強化や別室登校、保健室登校における環境整備、あるいはスクールカウンセラーなどの専門的助言をいただきながら、学校全体で組織的な児童・生徒理解に努めるなど、従前の取組を今後も充実させてまいりたいと、そのように考えております。

○中山武彦 対策を緊急的に強化していくということですから、従前の取組を強化していただきたいと思っておりますし、その点も心してしていただきたいと思っております。

文科省が今推奨してきた、暴力や自殺などの課題を未然に防止する教育ということで、これを強く推奨されてきたと聞いてます。香芝市では、この点どのように取組をされていますか。

○教育部長 毎年12月に、命の大切さを考える研修会と題しまして、心の健康、命の大切さをテーマとした教職員向けの研修を開催しております。園所、学校現場での心の健康教育につながるべく、昨年は「思春期のメンタルヘルスについて」、一昨年は「子供のSOSを受け止めるために」という演題でご講演をいただいたところでございます。

○中山武彦 そのような先生方の教育等がされてるということで、これは国会の中での議論ですけども、2021年3月、公明党の参議院議員がこうした心の健康の授業については極めて時間数が少ないということを指摘しました。全学年では心の健康やストレスを学ぶ授業というものの時間数をしっかり確保してほしいという要望をされております。それは、心の健康授業を視察して、そして、怒りとか、抑圧とか、それが体にどのような影響を及ぼすのかとか、そういったことを視察した上での効能を理解しての指摘でございました。そのようなことで、心の健康授業、実質的には、カリキュラム的には保健の時間は年間もう数時間しかない状況で、なかなか取られていないと、このような指摘もあります。

香芝市では、この学校現場における授業ではそのあたり拡充、充実等、学習はされてるのでしょうか。

○教育部長 学校現場におきましては、保健、また道徳、学級活動を通じ、自分も人も大切にすることができる児童・生徒を育むべく、取組を進めておるところでございます。今後、様々な方法で充実を図ってまいりたいと、そのように考えております。

○中山武彦 保健の授業だけじゃなくて、道徳もあるし、総合的な時間もありますので、学活

もありますので、そのあたり充実をしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

続いて、また質問させていただきます。次は、がん対策について伺いたいと思います。

今年4月からスタートして厚生労働省の第4期がん対策推進基本計画ですが、日本では40年以上にわたりましてがんの死因がトップになってるということで、一昨年の2021年には年間で約38万人の方ががんで亡くなってらっしゃるということで、割合にして約3人に1人でございます。日本では約2人に1人が生涯のうち何らかのがんに罹患するという現状があるということで、健康を維持する上で、がん対策は避けて通れないと思います。

今年スタートされるがん対策推進基本計画は第4期ということで、今まで様々にされてきておる中ですが、今回は全体目標を「誰一人取り残さないがん対策」ということを推進して、「全ての国民とがんの克服を」ということで目指されております。がんの予防とか医療、また医療の充実、がんとの共生という3分野なんですけど、現状でその課題、取り組むべき施策がまとめられました。

そこで、香芝市でも一層取り組んでいただきたいのですが、そこでまず最初に、香芝市のがん対策についてはどのように取り組んでらっしゃるのか、教えてください。

○副議長（下村佳史） 児玉健康部次長。

○健康部次長 本市のがん対策といたしましては、厚生労働省が指針により検診を進める5つのがんである胃、肺、大腸、子宮、乳がん検診を、また肝がん等に進行することを防ぐ目的で実施する肝炎ウイルス検診、子宮がんなどの原因となる感染症を予防するHPVワクチン接種をそれぞれの対象年齢の方に実施しております。

○中山武彦 がん検診されてるということは存じております。その計画を見ますと、予防では生活習慣の改善やウイルス、細菌感染の対策等々書かれておまして、がん検診の受診率向上も上げられております。香芝も今されてるとおっしゃってました。ただ、課題として挙げられてるのが、十分な検証なしに、指針に基づかないがん検診が自治体で約8割されてるといいう高い状況が出ておりますけど、香芝の進めるがん検診ではこのような指摘の中には入っているのでしょうか。それはどうでしょう。

○健康部次長 本市におきましても指針に基づかないがん検診を実施している団体でございますが、内容といたしましては、バリウムの胃がん検診と集団の肺がん検診におきましては年齢を引き下げて実施しております。指針に基づかないがん検診となっていることにつきましては、あくまでもがん検診の実施主体は市町村であり、地域の実情に応じた拡大につきましては問題ないと考えております。

○中山武彦 このようにちょっと書かれてると、なかなか、大丈夫かなと思ってしまいますので、その点確認させていただきました。今、実際実施されている市町村8割ということですが、

香芝は市町村として大丈夫だという話ですね。

香芝市の進めるがん検診で、こういったことで必要性の意義等広く啓発、周知されて、また住民に受診しやすい環境というところをしっかりとこれからも整備をお願いしたいと思います。

それで、がんとの共生の3番目の柱がありますが、香芝市では、がんに罹患された方の支援、これはどのようにされてるのか、教えてください。

○健康部次長 中和保健所におきましては、がん治療についての情報を得る機会や、患者やその家族が悩みや不安等について話し合えるがん患者サロンを開催されております。本市におきましては、保健師等の専門職が随時相談に応じることができ、心理的なケアといたしまして、心の健康相談室をご利用いただくことも可能でございます。

○中山武彦 そのようにされているということで、医療と介護とか様々な連携が必要だと思いますので、その点お願いしたいと思います。

今、運転免許証の更新の際ですが、顔写真を撮影するときに、がん治療によって脱毛された方については帽子をかぶったりしてもオーケーだというふう聞いてます。

このように、がんの治療に伴う外見の、外形の変化に伴う、補うための必要な支援、奈良県でもアピアランスケア支援事業として開始されてると聞いてますけども、この事業については把握されてるでしょうか。

○健康部次長 奈良県におきまして、令和5年度より補助のほうを実施されております。内容といたしましては、がん患者の社会生活の促進や経済的負担軽減のため、がん治療に伴う外見変化を補完するための医療用ウィッグや乳房補正具を購入した費用を支援した市町村に対しまして、各補正具1件当たり2万円を基準額として、2分の1を補助するものとして実施されております。

○中山武彦 ぜひとも、この事業について香芝市も検討してもらいたいんですが、県内の実施状況は把握されておりますか。

○健康部次長 県内12市におきましては、現在、橿原市、大和郡山市、桜井市、五條市の4市がアピアランス支援事業を実施されておられます。

○中山武彦 このアピアランスケア支援事業については以前からもちょっとお話ししたことがございますけども、なかなか大本の補助金が少ししかないし、なかなか単独では難しいというような答弁であったと思います。現在、こういったことで奈良県もされまして、受付は香芝市役所でやって、あと補助金等の申請等は奈良県でちゃんと受け付けてくれるというふう聞いてるんですけどね。市が窓口になるというような理解だと思ってるんですけど、その点はお存じないかもしれませんけど。スキームを見ますと、香芝市と奈良県との連携事業というふう聞いております。

香芝においても、この事業をすることのメリットあると思いますけども、この実施に向けて検討していただけますでしょうか。どうですか。

○健康部次長 アピアランスケアに関しましては、外見の変化に起因するがん患者さんの苦痛を身体的、心理的、社会的問題に対して包括的に支援することです。がん患者さんのQOL、いわゆる生活の質の改善のために必要なことであると認識しておりますので、他市町の動向も注視し、前向きに検討してまいりたいと考えております。

○中山武彦 その点、検討のほうよろしく願い申し上げます。

「文化・スポーツの振興と学校部活動について」

○中山武彦 では、続いて3番目、文化、スポーツの振興についてと、また学校部活動について質問いたします。

まず、文化、スポーツの振興ということでございますけども、今年のプロ野球は38年ぶりの関西球団が優勝ということもあり、またいろいろとWBC等、ワールドカップ等もございました。スポーツを好きでない方も興奮したことがあったと思います。障害のある人も、ない人も、また若い人も、高齢者の方も、様々誰もがこういったスポーツをしたり、見たり、聞いたり、また支えたりということで、スポーツを通じての幸福の形成、豊かな気持ちになったり、健康増進等、スポーツの効能たくさんあると思います。また、音楽や舞台芸術等も非常に心安らいたり、幸せな幸福感を感じるということもございます。

しかしながら、今、少子・高齢化が進んでいくので、スポーツの施設の状況等、クラブの状況等、実情は様々ありますけども、将来継続して文化、スポーツに親しめるかどうかというところは非常に疑問点があるところでございます。そこには地方自治体も指導者の確保や、また施設の維持管理、各団体との連携等々して、振興策をしっかりと図っていく必要があると、こう考えます。

そこで最初に、香芝市における文化、スポーツの実施状況、このあたりについて質問いたしますけども、文化、スポーツ施策ではどのような事業をされているのか、教えてください。

○副議長（下村佳史） はい、津崎まなび推進局長。

○まなび推進局長 今年度事業といたしましては、文化芸術の分野では、美術展覧会のほかに、講演会、音楽イベント、写真撮影会や障害をお持ちの方の作品展など、様々なジャンルを盛り込んだアートweek事業をやっております。また、スポーツ部門では、Jリーガーのサッカー教室などのいろんなチャレンジができるスポーツweek事業を開催しております。また、そのほかにも、指定管理者の自主事業として、公民館での講座の開催であったり

とか、体育館でのスポーツ教室などの取組もございます。

○中山武彦 生涯スポーツ、また文化活動の文化芸術の振興ということで事業されてるということですが、特に地域の活力や子供の教育上、大切なことだと、このように思っていて、公明党としても、コロナ禍で傷んでいる文化人や芸術、芸能の方を支援しようということで、様々な形のことをされました。また、これまでも、子供の鑑賞、体験の機会が得られるように、各学校で使えるような事業もメニューとしてございます。三和小学校で、この間、車椅子の方々が活動されたということも聞きました。

この文化、スポーツの振興をしていく上で香芝市が持っている理念というもの、どのようなものか、まず教えてください。

○まなび推進局長 生涯学習におきましては、第3次香芝市生涯学習推進基本計画、基本の目標といたしまして、文化・芸術及びスポーツ・レクリエーションによる学びを通して生涯学習の充実を図ると掲げてございます。また、アクションプランでは具体的な取組を示し、市全体で様々な活動の場を提供していくという方針を持っております。

○中山武彦 今の理念で聞きましたけども、その大本のどこ、スポーツ庁が今年の第3期のスポーツ基本計画によりますと、やっぱり新しい視点からの今後施策として、多様な主体が参加できるスポーツ機会の創出などとして、地域や学校における子供・若者のスポーツ機会の充実と体力向上というところも打ち出しております。

香芝市では、このようなスポーツ機会の創出につながる事業、これはされているのでしょうか。

○まなび推進局長 イベントを開催するだけではなく、活動されてる団体の活躍の場を創出することも考えておまして、今年度は、試行でございますが、放課後子ども教室にスポーツ推進員も出向きまして、子供たちにいろいろなスポーツを体験するような取組を行っております。また、スポーツ協会のほうでは、障害者のスポーツのボッチャ教室を実施していただいております。このように、各団体の持ち味を生かして、創意工夫を行いまして、多様なスポーツの機会を提供してまいりたいと考えております。

○中山武彦 文化芸術面についてもお聞きいたしますが、障害のある方などの今文化芸術のイベント等もお聞きしましたが、これからもそういった文化芸術に触れる仕組みについてはどうでしょう。

○まなび推進局長 先ほども申しましたように、アートw e e e e kにおきましてチャレンジアート展、これは障害をお持ちの方のアート作品を展示いたしました。また、大阪教育大学の音楽専攻生によるフレッシュコンサートや、市の美術展覧会におきましては35歳以下の方を対象としたルーキー大賞、こういったものを設けるなどして、若い世代の参加を促すことも

考えながら事業を実施しておるところでございます。

○中山武彦 ルーキー大賞ですね、新しくされてると。ちょっと総花的なところもあるかと思えますけども、文化芸術やスポーツの地域展開というか、居場所というところでは、現状では公民館等、また自治会の集会所等、地域の自治会館などで活躍されている団体等があると思えますけども、こういったところ、地域での活動されているところの団体については香芝把握されてるのでしょうか。

○まなび推進局長 地域の自治会の集会所での活動自体につきましては、申し訳ございません、把握はしておりません。公民館のほうにつきましては確認が取れておりますので、ご紹介いたします。令和4年度末現在で87団体ございます。内容につきましては、絵画や書道、また合唱、邦楽など、17種類以上の様々なジャンルで活動されているということでございます。

○中山武彦 私としては、生涯スポーツの生涯教育を進める上では、やはり全て把握していただかなければいけないと思えます。これはやっぱり全庁的に、教育委員会になりますけども、本来であれば市長部局にあってもいいような部局でございますので、その点は自治会等の活動、また福祉部局との活動、百歳体操等もございまして、そこを把握しないと全体の施策を打てないんじゃないかと思えます。これから進めるいろんな施策ですね。ですから、ちょっとそのあたりを把握するようにちょっとお願いできますでしょうか。その点どうでしょう。

○まなび推進局長 自治会の集会所で活躍されてる方もいらっしゃると思えますので、今後、今行ってます放課後子ども教室における取組のように、子供たちの関わりをつなげる以外でも各団体の活動ができるように、集会所等にも出向くような活動ができるように、把握はしていきたいと考えております。

○中山武彦 その点はよろしくお願い申し上げます。将来の文化、スポーツ振興のためにも、その機会の創出というところをしっかりと把握して、進めていただきたいと願っております。

先ほども小西議員から質問がありまして、私たちの委員会でも小西委員長を中心に委員会視察しました半田市さん、総合型地域スポーツクラブの受皿を30年かけて今中学校区に1つつくって、また地域クラブの受皿に、部活の受皿にするという進め方をされてます。30年かかっているということで、その間もいろいろ紆余曲折があったようです。話を聞いてきました。

部活の地域移行の受皿となるような新しい展開を今後描いていくというイメージがあるんです。地域の文化、スポーツの受皿ですね。その点について、香芝でもそのような受皿となる団体が増えればよいと思うんですが、ほかにもその受皿となるような団体が今あるのか。そのあたりはどうでしょう。

○まなび推進局長 さきの小西議員様の質問でもお答えしましたように、受皿となる団体というと、例えば文化部門は文化協会、スポーツ部門はスポーツ協会、それがつながればよいと考

えておりますけれども、今現在の段階では難しいと考えております。今は各団体の事業を充実させるとともに、市民に提供する事業を進めていただいておりますので、団体の成熟度を高めながら、将来的には文化、スポーツに係る指導者の育成にも力を入れていただければ、受皿となる団体も増えていくことになるかという希望的な意見でございますけれども、今後とも、そういった意味をも込めて、連携は図っていきたくと考えております。

○中山武彦 今の団体は活躍されてると伺ってますので、そこに主眼を置くのもいいんですが、個別の様々な活動されているところ把握されて、これからちょっとそういったところの視点からも進めていただく必要があると思いますので、その点よろしくお願ひしたいと思ひます。

続いて、最後になりますけれども、学校部活動の地域連携、地域移行についてです。

先ほど小西議員さんが質問の中でかなり詳しくお聞きいただきまして、聞いておりました。部活の地域移行の検討というところについては、現在進めているということで、流れは大体分かりました。私なりに、なるべく重ならないように聞いていきたいと思ひますが。

今、少子化と教師の働き方改革という背景もあって、部活については、子供たちが将来も継続して親しめるように、地域移行ということを国が今働きかけて進めております。先日も愛知県半田市に行かせていただいたところですが、まずは土日の休日の部活動を外部に移行していくというところがございます、また教師の負担がないようにというところもあって、それをまずしたいというような意向であると思ひます。

また、国の考えとしては、地域でやっぱり子供たちを育てるという意識の下に、地域スポーツ文化の資源を最大限生かしたいというようなことだと思ひます。ただ、地域の実情は様々ですので、香芝のように、まだはっきりしないという面もあるし、受皿団体も少ないというところがあると思ひます。

今後3年間されるということも聞きました。香芝の取組の現状、答えられていないところを中心に教えていただきたいと思ひます。

○まなび推進局長 スポーツ庁の事業を活用いたしまして、令和4年度は1校、今年度は2校で休日部活動の地域移行の実証を行っております。

また、香芝地域クラブ活動推進会議において、移行に関して様々なご意見をいただいているところがございます。内容は、移行時期、指導者、教員の兼職兼業、受皿団体、受益者負担、児童・生徒や保護者への周知などについてでございます。

○中山武彦 実証事業について、これはどのような状況なのか、教えてください。

○まなび推進局長 本年度は香芝東中学校女子卓球部、香芝中学校女子バスケットボール部で実証を行っており、香芝東中学校では9月2日から、香芝中学校では10月8日から、地域指導者による休日の指導が始まっております。どちらの部におきましても、顧問教師と指導者の

円滑な連携を中心として検証を行っておるところでございます。

○中山武彦 実証事業についても、顧問の先生と指導者の連携ですか、地域クラブの連携されてるということで、国の方針も先ほどの小西議員さんの質問で理解いたしました。地域クラブへの移行というところで、ステップを踏んで、平日もその次はやっていくというようなことだと思います。スケジュール等の仕組みについてはまだ明確化されてないということもお聞きいたしました。香芝でもイメージとしては、学校と地域クラブの融合を図っていくというようなことではないかなと、お互い恐らく並行して進んでいくのではないかなと、こう思っているんです。どちらに比重を置くかということだと思んですが。

そこでまず、現在移行期というところで、現実的にちょっと聞いていきたいのは、中学校の部活の今の現状、所属生徒数の割合等、実態面について、また各種目数についての推移について教えてください。

○まなび推進局長 現在の中学校の部活動は3年生の引退前となる5月時点の数字になりますけれども、昨年度は84%、今年度は82.7%の割合で入部されているということです。残念ながら、それ以前の数値が出ておりませんので、推移という意味ではお答えが難しいところでございます。申し訳ございません。

○中山武彦 スポ少については分かりますか。

○まなび推進局長 申し訳ございません。部活動数の推移につきましては、今年度の部活動数は4中学校合わせまして62でございます。この数は少なくとも過去5年以上増減はないという状況でございます。

○中山武彦 部活動について、82%ですかね、最近中学校においては。ということで、かなりの方が入ってらっしゃる中で、現状ではまだそんなに減ってないし、あんまり心配することもないのかなという、ちょっと余裕はあるのかなというニュアンスでは聞こえました。そうすると、ほかの市町村はどうか分かりませんが、少子化の影響とかあるとすれば、あとは指導員の確保、それから種目を選べるかとか、そのあたりに当面はなるのかなと、このように思いますが。

そこでまず、専門性というところを聞きたいんですが、学校の顧問の先生の専門性というのは十分にあると考えていいんでしょうか。どのぐらいの割合の方が専門家なんでしょう。

○まなび推進局長 今年7月に実施いたしましたアンケート調査では、担当している部活動の種目について、経験がなく指導が困難、または経験はあるが指導は困難と回答した教員が44.9%いるという結果が出ております。アンケートですので、全員の数字ではございませんけれども、半分ぐらいが困難というふうな回答しているのが現状でございます。

○中山武彦 半分ぐらいの方が専門性があるわけですね。ですから、何と申しますか、NHK

のドラマでは「奇跡のレッスン」というのがあって、ドキュメンタリーですかね、プロの選手、監督が教えると子供が一段とすごく成長するというか、教え方も全然違うというようなこともありまして、指導者の確保というものは大変重要だと思うんですね。ですけども、現状での部活動については、しばらくはこのまま続けていくというようなことだと、先ほども答弁があったと思います。であるならば、この間に部活動改革をしていくとすれば、同時並行的に、例えば他種目、土曜日、日曜日はほかの種目でも構わないよというような話ですので、現状から他種目を選べる部活動の形態にしていくとか、もしくは、先生方、土日に兼職兼業という話もありました。そうすると、ボランティアではなくて、有償になる可能性がある。そうすると、指導者の要件というか資格みたいなもの、認証みたいなものが必要になってくると思います。どこかの団体で認証を取った方が、それは団体によって試験とかあるかもしれませんが、そのようなこともあらかじめ図っていただくということも必要かと思います。これは、あとは要望としておきますけども、様々な課題があると聞きました。学校によっては、顧問の先生ももう 10 年たって新しい人にまた異動になると移るわけですが、なかなか育っていないので、しばらくはもう少し異動せずにいる必要あるんだとか、様々な役職もあって、なかなか若い教員が育ってない現状があると。そういった中での経過措置として、何か当面、人事上の問題ですけども、教育長にちょっと聞いたらいいいのちちょっと分かりませんが、この部活動の移行によってクラブ活動が何かのインセンティブになるような採用はしないよというようなこともちらっと聞いてるんですね。ですから、今後、貴重な戦力になるこの顧問の先生方の配慮というものをどうするのか。その点、ちょっと人事上の配慮についてちょっと最後にお伺いしておきたいと思いますが、どうですか、この点。

○まなび推進局長 部活動に関する人事の問題ということではなくて、全体のことになってきますので。今、部活動のことにしましては、現在複数の顧問制を採用しておりまして、指導できる教員と指導が困難という教員一緒になって顧問を持つ形を取っていたり、専門技術を持った部活動の指導員を配置して、技術の指導を行うなどのそういった対応をさせていただいております。ほかにも、今年度から剣道や柔道や水泳というのは拠点式方式というのを取っております。ほかにも、今年度から剣道や柔道や水泳というのは拠点式方式というのを取っております。部活動がない学校のところでも、生徒が拠点を持って、その拠点で活動できる、そこに参加できるという体制も取っておるところでございます。

○中山武彦 それは部活動の運営のほうの答弁だと思いますね。合同部活動みたいなことですね。部員 1 人の野球部というところも高校ではあって、試合にはほかのところと一緒に出るとか、そのようなことはあるかと思います。そのあたりもやられると思いますけど。私が今言ってるのは、教職員の 50%の方は顧問として部活動を行いたいというようなアンケートもあると聞きました。ただ、異動等ございますから、その間の人材の育成がいろいろと各学校によっ

て違うと思いますけどね。その点の配慮についてちょっと聞かせていただきたいと思います。何も答えれるところがなければ、それはいいんですけども。そのあたりのことが問題になるかと思えますけど、その点どうでしょう。

○教育長 失礼いたします。部活動については大変難しい問題たくさんございます。今後、朝も話ありましたように、地域移行、土日については、特にそういう形になっていくと思うわけですけども。また、その移行期については各学校の先生方にまだお願いしてる部分もたくさんあります。ただ、先ほども答弁ございましたように、試験的に2校の中学校で、女子部のほうで、地域の方に入っていただくという形をつくっております。しかし、学校サイドで考えてみますと、どの学校も1つの部活動ができないというときには、部活動は2校で1つの部活動するとか、そういうことも考えられるかも分かりません。今後、いろんな形で動いていく可能性があるところでございます。

○中山武彦 分かりました。様々な課題があって、これから今検討する流れの中で様々な対応もされていくということは大変ありがたいこととございます。いろいろと大変な課題があると思えますけど、しっかり取り組んでいただきたいと思えますので、お願い申し上げて、これで質問を終わります。ありがとうございました。